

2019年6月9日

聖書からのメッセージ

そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。

(使徒言行録 2 章 3 節)

本日は聖霊降臨日です。おめでとうございます。聖霊降臨日は復活日(イースター)、降誕日(クリスマス)と並ぶ三大祝祭日です。クリスマスはイエス様の誕生日、イースターは十字架につけられ、墓に葬られたイエス様が復活されたことを覚える日です。では聖霊降臨日(ペンテコステ)は一体どのような日なのでしょう。

使徒言行録に書かれている聖霊降臨の出来事が起こったのは、五旬祭と呼ばれるユダヤ人の小麦の収穫祭のことでした。イエス様の弟子たちはそのときに、エルサレムに集まり、祈っていました。エルサレムというと、ユダヤの宗教の中心地です。五旬祭を祝うために、多くのユダヤ人が来ていたことでしょう。五旬祭は過越祭の 50 日後におこなわれるお祭りです。つまりイエス様は十字架につけられてから、たった 50 日しか経っていないのです。

イエス様が十字架につけられたとき、弟子たちはイエス様を見捨てて逃げていきました。復活の朝も、鍵がかかった家の中で震えていました。しかし今日の場面を見る限り、弟子たちは恐れから解放されていたようです。復活されたイエス様が 40 日の間、一緒にいてくれたということもあるでしょう。そしてイエス様は天に昇られるとき、弟子たちに聖霊を与える約束をします。それを聞いて弟子たちは、エルサレムにとどまっていた。

では聖霊降臨とはどのような出来事なのでしょう。使徒言行録には「炎のような舌が分かれ分かれに現われ、一人一人の上にとどまった」とあります。そしてそのとき、一同は聖霊に満たされ“霊”が語ら



せるままに、ほかの国々の言葉で話し出しました。その言葉は、エルサレムに来ていたあらゆる言語を話す人々の耳に届けられ

ます。そしてそのときに弟子たちが語っていたのは、神さまの偉大な業でした。

炎のような舌、あらゆる言語で語り出される言葉。これらのことを論理的に証明しようとしても、それは無理だと言わざるを得ません。しかし神さまの業は、2000 年前の五旬祭の日に、弟子たちに現されました。彼らはそして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また血の果てに至るまで、イエス様の証人とさせられたのです。

人間の力だけで福音が語られていたのだとしたら、人間の知恵だけでイエス様のことが伝えられていたとしたら、2000 年たった今、こうして世界中のあらゆる場所に、教会は存在し続けていなかったことでしょう。聖霊が注がれ、一人一人に分かる言葉で神さまの業が語られた。それが今も続いている聖霊の働きです。

この聖霊降臨日は、教会の誕生日とも言われます。弟子たちに聖霊を注いで始められた神さまの業が、教会という共同体を通して目に見えるものとなったのです。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>